

令和5年度
立正大学
文学部
公開講座

 立正大学
RISSHO UNIVERSITY

第1回 9/27(水) 18:30~20:00

和歌

文学から見る日本古代・中世の生と死
渡邊 裕美子 立正大学文学部教授

第2回 10/4(水) 18:30~20:00

聖書

英文学の名作と聖書物語の価値観と死生観
村山 晴穂 元三育学院短期大学教授

第3回 10/11(水) 18:30~20:00

仏像彫刻

古典彫刻に見られる生命の躍動
秋田 貴廣 立正大学仏教学部教授

第4回 10/18(水) 18:30~20:00

終末期ケア

現代医療文化における生と死
伊藤 高章 立正佼成会附属佼成病院チャプレン

第5回 10/25(水) 18:30~20:00

四国巡礼

巡礼が紡ぐ死と生の物語
浅川 泰宏 埼玉県立大学保健医療福祉学部共通教育科准教授

[共催] 立正大学文学部 / 品川区

募集期間 8/15(火) - 9/8(金)

※1回のみでもご参加いただけます。 ※本学学生・教職員は申し込み不要です。
[個人情報保護の取り組み] ご提供いただきます個人情報(法令等に定める一定の場合を除き、利用目的以外には利用しません。なお、利用目的の詳細につきましては本学ホームページ内の「個人情報保護の取り組み」をご覧ください。
http://www.ris.ac.jp/rissho_school/release_information/compliance/personal_info_protection.html

会場 立正大学品川キャンパス 石橋湛山記念講堂
(大崎駅・五反田駅より徒歩5分)

対象 16歳以上の方 受講料 無料

問い合わせ先 品川区文化観光課 生涯学習係 TEL.03-5742-6837
立正大学文学部事務室 TEL.03-3492-8791

詳細は立正大学
公式ホームページでも
ご確認ください。



www.ris.ac.jp

立正大学 検索

和歌

第1回

9月27日

文学から見る 日本古代・中世の生と死

日記や和歌を手がかりに、人々が生や死をどう捉えていたかを読み解く



渡邊 裕美子
立正大学文学部教授

立正大学文学部教授。専攻は、和歌文学・中世文学。著書に、『新古今時代の表現方法』（笠間書院、本書で角川源義賞受賞）、『歌が権力の象徴になるとき―屏風歌・障子歌の世界―』（角川学芸出版）、『藤原俊成』（コレクション日本歌人選、笠間書院）、編著に『百人一首の現在』（花鳥社）など。

講演要旨

中宮彰子の御産を記す『紫式部日記』、また、自身の理想的な死のあり方を詠んだ西行の歌、そして父である藤原俊成の死を詳細に記した定家の日記『明月記』。こうした日記や和歌を、絵巻など絵画資料とともに読み解いて、当時の人々が、生や死にどのように対峙し、どのような思いを抱いていたのかを考えてみます。

聖書

第2回

10月4日

英文学の名作と 聖書物語の価値観と死生観

英米文学の名作に秘められた聖書の価値観・死生観をひもとく



村山 晴穂
元三育学院短期大学教授

英文学者／英国ニューカッスル大学より、英文学の博士号（PhD）を授与される。英米文学の名作と聖書物語の価値観の比較研究を続けている。[博士論文題目] George Eliot and the Bible
聖書文学者／聖書物語の交差法文学構造と主題化の研究をしている。

翻訳家／聖書神学関係の英文図書50以上の翻訳書がある。[主要訳書] 監訳『ミルトンと対話するジョージ・エリオット』（英宝社）。

講演要旨

世界的に知られている英米文学の名作に秘められた死生観には、作家のキリスト教的価値観が示されていることを論証する。ジョージ・エリオット、ジョン・バニヤン、ギヤスケル、ストウ夫人等の作品における聖書の死生観をとりあげる。

講師紹介

生と死を 見つめる

令和5年度
立正大学
文学部
公開講座

共催

品川区
立正大学文学部

仏像彫刻

第3回

10月11日

古典彫刻に見られる 生命の躍動

仏像に対する信仰の礎となる、仏像それ自体が持つ魅力について考える



秋田 貴廣
立正大学仏教学部教授

立正大学仏教学部教授、立正大学仏教文化財修復研究・実習室 研究主任。東京藝術大学美術学部彫刻科を卒業後、同大学院にて日本の古典彫刻と修復を学ぶ。その後、仏像の模刻制作および修復事業に携わる。学部教育においては、「彫刻実習」や「文化財」という観点をとった「文化理解」の可能性に焦点を置いている。

講演要旨

仏像は信仰の対象である。しかし何かの素材を用いて誰かが作ったものが、なぜ信仰の対象になり得るのかと考えると、そこにとてつもない奥行きがあることに気づく。もし目の前の像に何か超越的な印象を受けるとしたら、それはその像自体が力を持っているということ。そこには芸術としての濃厚な意味が潜んでいる。

終末期ケア

第4回

10月18日

現代医療文化における 生と死

終末期ケアを実践するグリーンケア専門家の目から見た生と死を論じる



伊藤 高章
立正校成会附属
佼成病院チャレン

国際基督教大学大学院、The Church Divinity School of the Pacific 修了。上智大学大学院実践宗教学研究科研究生学専攻（臨床スピリチュアルケア担当）教授、Stanford Medical Center臨床牧会教育客員スーパーヴァイザー等を歴任。現在、立正校成会附属佼成病院チャレン、上智大学グリーンケア研究所客員所員、一般社団法人オンコロジー教育推進プロジェクト社員。

講演要旨

現代医療は、人間の生物学的存在を対象とした科学的知見と、心理学や社会学さらに社会福祉学等の人間科学的知見に基づく総合的な営みである。さらに近年はメディカル／ヘルス・ヒューマニティーズと呼ばれる芸術・文学など人文的知見も重視される。医療への多面的理解の中で生と死がどの様に理解されるのかを検討する。

四国巡礼

第5回

10月25日

巡礼が紡ぐ 死と生の物語

巡礼と死や生の結びつきを、主に四国遍路の事例から論じる



浅川 泰宏
埼玉県立大学
保健医療福祉学部
共通教育科准教授

慶應義塾大学大学院社会学研究科後期博士課程単位取得退学。博士（社会学）。専攻：文化人類学・民俗学、宗教学。現在、埼玉県立大学准教授。
[主著]『巡礼の文化人類学的研究―四国遍路の接待文化』（古今書院、2008）
『四国遍路―さまざまな祈りの世界』星野英紀氏との共著（吉川弘文館、2011）

講演要旨

本講義では、巡礼と死や生の結びつきを、主に四国遍路の事例から論じます。前半では、巡礼に通底する死のイメージを近世の行き倒れ遍路などの事例から考察します。後半では、死を抱えた巡礼者の再生の物語と、気づきや「悟り」の舞台としての四国を、巡礼路から見える海の景観の移ろいに着目して読み解きます。

● 応募方法

募集期間 **8/15(火) - 9/8(金)**

会場 **立正大学品川キャンパス石橋湛山記念講堂**
(大崎駅・五反田駅より徒歩5分)

対象 **16歳以上の方**

受講料 **無料** 定員 **300名**

問い合わせ先 **品川区文化観光課 生涯学習係** TEL.03-5742-6837
立正大学文学部事務局 TEL.03-3492-8791

WEB登録

品川区ホームページの電子申請ページから受講登録(申請)できます。



往復はがき

①講座名「立正大学文学部公開講座」 ②住所
③氏名(ふりがな) ④年齢 ⑤連絡先電話番号
⑥過去の受講参加の有無
を明記し、下記申込先へお送りください。

申込先

〒140-8715 品川区広町2-1-36
品川区文化観光課 生涯学習係 宛

往信用(おもて) 返信用(うら)

往信	140-8715 品川区広町2-1-36 品川区文化観光課 生涯学習係 行	※返信は、ハガキの裏面に何も記入しないでください。
----	--	---------------------------

郵便番号	〒140-8715	①講座名	立正大学文学部公開講座
住所	品川区広町2-1-36	②住所	
氏名(ふりがな)		③氏名(ふりがな)	
連絡先電話番号		④年齢	
過去の受講参加の有無		⑤連絡先電話番号	
		⑥過去の受講参加の有無	
申し込み方の住所			
申し込み方の氏名			